

## 大学

健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科  
救急救命学専攻

### 救急救命実習Ⅰ

高木省治教授、夏目美樹准教授、小野木堂人講師

救急現場を想定した実習を積み重ね、  
救急救命士に一歩ずつ近づく。

尊い命を救うための基礎知識・技術を実践的に学ぶ「救急救命実習Ⅰ」は、1年次の1年間を通して開講されます。救急救命の理論や実技を修得するとともに、医療人である救急救命士をめざす自覚を養う場にもなります。後期には、救急車を使用した実習も実施。傷病者の細かな状況を想定し、実際の救急現場に即したシナリオのもとシミュレーションに取り組みます。乗車するのは3人1チームずつ。触診や聴診器による心拍確認などをしながら、頸部・胸部・腹部の継続観察、止血・固定などの処置を行います。「命にかかわる病態が現れていないか、わずかな変化も見落とさないことが重要です。常に傷病者の顔を見て声掛けし、的確に観察しよう」と夏目先生。学生は緊張感を持って救急活動の一つひとつを学び、一刻を争う命の危機に迅速に対応できる力を鍛えています。



## 愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

## 大学

交流文化学部 交流文化学科

### ケーススタディ言語6 (中国観光案内実践)

何龍講師

中国語を使う学びを重視し、  
日本と中国の架け橋になる力を磨く。

中国語を実践的に学ぶ体験科目「ケーススタディ言語6(中国観光案内実践)」では、コロナ禍以前は名古屋市内の観光地で中国人観光客へのボランティアガイドに取り組んでいました。現在は感染対策を最優先に、オンラインによる海外の協定校との交流を実施しています。その授業の一環として、北京語言大学と連携したオンラインガイドに学生たちが挑戦。星が丘キャンパスの各施設を中国語で北京語言大学の先生方に紹介しました。質疑応答も中国語で行い、これまでに培った語学力を発揮していた学生たち。何先生は「自分が伝えたいことを中国語で発信するという経験を通して、コミュニケーション力が磨かれていると感じます。これからの時代を担う学生たちが広く国際社会に目を向けて、日本と中国の架け橋になってくれたらと思います」と学生の成長に期待を寄せています。

